

2021 年度 学校評価報告書

(自己評価・授業評価・学校関係者評価及び次年度方針)

2022 年 9 月 1 日

大阪信愛学院中学校高等学校
学校評価委員会

はじめに

学校教育法及び同施行規則に基づき、本校において学校評価を実施するため、2022年2月に本校の教員、及び保護者に「学校自己評価アンケート」を実施した。また、生徒には「授業評価アンケート」をWeb配信し、結果を集約した。その後、中学校高等学校の保護者の代表役員、卒業生の代表役員、卒業生保護者の代表役員に学校関係者評価を実施していただいた。本文書は学校評価委員会が分析したものである。

本校の設立母体は、フランスに本部のある「ショファイユの幼きイエズス修道会」である。系列校は日本に4校あるが、系列校の中で保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、そして大学を併設しているのは本校のみである。系列校の基本であるキリスト教的価値観に基づき、自分と他者を大切に、かけがえのない生命の尊さを体現し、隣人愛ゆえの国際教育、与えられたタレントを磨くことを実践している。

今回の学校評価は本校の現状及び課題を再認識する契機として位置づけ、伝統の上にたった変革を成し遂げるための有効な検証の手段としてとらえている。

1. 建学の精神

「キリストに信頼し、愛の実践に生きる」

1877年（明治10年）、フランスから派遣された4人のシスターたちは捨て子たちを養育することから始めた。それは「隣人を自分のように愛しなさい」というキリスト教的精神の表れである。その精神に従い、弱い者、困っている者、傷ついている者に手を差し伸べるという行為を実践した。

1884年（明治17年）、大阪の川口居留地に最初の女学校が創立された。信愛に集う生徒たちが建学の精神を体現し、社会に貢献することを目指す。

2. 教育目標

(1) キリストの教えに根ざした教育

キリストの人間観・価値観、及び『幼きイエズス修道会の精神』を基盤として、生徒の宗教心を呼び覚まし、心豊かな人間を育成する。

(2) 一人ひとりを大切にする教育

キリスト教的教育理念の中心である『神の愛』を土台として、生徒と教師、生徒相互の関わりを通して一人ひとりが大切にされ、受け入れられるよう配慮し、相互の人権を尊重する精神と態度を育てる。

(3) 能力の開発を目指す教育

生徒一人ひとりが与えられた能力に気づき、それを最大限に開発して、知・徳・体の調和のとれた人間となるよう育成する。

(4) 自己形成を促す教育

人間としての生き方を自覚し、主体性をもった学習や生活による目標の実現を目指し、常に自分自身の成長を図ろうとする自己形成力を持った生徒を育成する。

(5) 社会貢献への態度を育成する教育

各自の能力・個性を十分に生かし、時の動きに対応したよりよい社会の実現に貢献していくことのできる生徒の育成を図る。

3. 目指す教師像

教員の意識向上、及び組織の健全化を図るために、令和元年度よりモチベーション・マネジメント制度（教員評価制度）を導入している。モチベーション・マネジメント制度は、学校目標を各学年・各分掌にブレイクダウンし、さらに各々の教員がそれに沿って目標を設定する。これによって、個人の目標と学校目標が連動し、学校目標が効率よく達成されることを目指したものである。年度始めに、自身が所属するリーダーと目標設定を行い、中間フォロー、学年末の振り返り面談等を通して、目標達成を目指すために個々がPDCAサイクルを回す。また、キャリアパスと各段階での役割を明確にすることで、組織の健全化を図る。このモチベーション・マネジメント制度の設計にあたり、「目指す教師像」を明文化し、それをもとに議論を進めた。以下に本校の目指す教師像を示す。

キリストに信頼し、愛の実践に生きる教師

〈生徒に対して〉

- ・生徒の無限の可能性を信じ、成功と失敗を通して成長を支える教師
- ・コミュニケーションを十分にとって信頼される教師
- ・温かさを持って、場面に応じて厳しく指導できる教師

〈チーム（組織・同僚）に対して〉

- ・学校の目標に向かって率先して行動し、協働する教師
- ・敬意、感謝、信頼をもって、お互いに言うべきことは言い合う教師
- ・コミュニケーションを十分にとって助け合う教師

〈自身に対して〉

- ・専門分野に精通し、授業力、指導力を高め続ける教師
- ・向上心を持って新しいことに挑戦しながら、振り返り、改善できる教師
- ・社会とつながり、広い視野をもち、新しい教育を追究する教師
- ・常に心が健やかな教師

4. 教育コンセプト

建学の精神、教育理念、教育方針、教育目標と、現代・これからを生きる生徒に必要な力を考え、以下の通り、教育コンセプトを設定している。

知識と技能を反復によって定着させた上で、現代を生きるために必要な〈学ぶ力〉〈心〉〈姿勢〉を育成する。

〈学ぶ力〉 **Academic skills**

探究力・学び続ける力・コミュニケーション力の3つの「学ぶ力」を育成する。

〈心〉 **Mind**

違いを受け入れ、かけがえのない存在であることを認め合う「心」を育成する。

〈姿勢〉 **Attitude**

先を見据える「姿勢」、自分の考えや行動を省み改善する「姿勢」を育成する。

5. 2021年度（令和3年度）学校目標

建学の精神の具現化を目指し、本校の教育目標の達成と学院の発展を図るために、次の内容を重点目標に掲げた。

- (1) 目指す教師像の実現
- (2) 教育コンセプトの実現
- (3) ICTの活用充実
- (4) 学習意欲及び学力向上
- (5) 進学実績の向上
- (6) 入学者数の増員

2021 年度（令和 3 年度） 学校目標と具体的方策及び評価指標

	評価項目	具体的方策	方策の評価指標
(1)	目指す教師像の実現	① モチベーション・マネジメント制度を改良し、意識向上と行動の変容を図る。 ② Classi の自己評価アンケートの中間、学年末の振り返り実施により、意識向上と行動の変容を図る。	年度始めと年度末に教員が自己評価を行い、各項目の評価向上が教員全体の 50%以上
(2)	教育コンセプトの実現	①教員及び生徒に自己評価アンケートを実施し、意識付けを行う。 ② 教育コンセプトと各行事を結びつけ、振り返りを実施する。	・教員による学校評価アンケート該当項目 70%以上 ・生徒による自己評価を行い、各項目 70%以上 ・保護者による学校評価アンケート該当項目 70%以上
(3)	ICT の活用充実	Chrome book の新規導入、教員配布用 iPad の再分配を行うと同時に、iPad や Chrome book を使った授業を拡充し、研究または公開授業を行う。	・教員による学校評価アンケート該当項目 70%以上 ・保護者による学校評価アンケート該当項目 50%以上 ・生徒による自己評価アンケート 50%以上
(4)	学習意欲及び学力向上	①授業評価アンケートの振り返りを実施し、課題等を共有することで改善を促す。	授業評価アンケート該当項目 70%以上
		②英検・GTEC スコア・漢検の各学年における指標を示し、生徒が率先して学習に取り組む姿勢をサポートする。	英検 中 1)4 級 80% 中 2)3 級 50% 中 3)3 級 80% 高 1)文理系準 2 級 50% その他 3 級 60% 高 2)文理系 2 級 60% その他 準 2 級 40% 高 3)文理系 2 級 80% その他 準 2 級 60% GTEC スコア平均を各学年 40 以上上昇 漢検 中 1)4 級 50%(5 級 100%) 中 2)4 級 100% 中 3)S 文理 3 級 100% 学際 3 級 50% 高 1)文理系準 2 級 50%(3 級 100%) ソレイユ・看護・子ども 3 級 50% 高 2)文理系準 2 級 100% ソレイユ・看護・子ども 3 級 100% 高 3)文理系 2 級 50% ソレイユ・看護・子ども 準 2 級 50%
(5)	進学実績の向上	現状より一歩上を目指した進路を実現するための学習指導と進路指導を担任と教科担当者が密に連携して実現する。	国公立大・関関同立) 合格者数 20 名 産近甲龍・三女子大) 合格者数 30 名
(6)	入学者数の増員	①共学化を軸に、高校においては新しい教育をアピールし、中学においては手厚い指導をアピールしながら募集活動を行う。	入学者数 中学) 40 名以上 高校) 180 名以上
		②重点地域を意識した募集活動を行う。	
		③各種イベント、広報ソールを改善する。	

6. 2021年度（令和3年度）学校評価アンケートと結果分析

アンケートは、7分野25項目について行った。結果と分析は以下の通りである。分析はA（よくあてはまる）を+2、B（ややあてはまる）を+1、C（あまりあてはまらない）を-1、D（まったくあてはまらない）を-2として、各評価A～Dの割合に乗じたものを下段にスコアとして中学と高校別に示した。スコア0.8以上のものを良好と考え、それ以下のものを要検討事項と考えた。

A：信愛教育・教育コンセプトについて

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目	1	2	3	保護者					教員					
				A	B	C	D	%	A	B	C	D	%	
A:信愛教育・教育コンセプトについて	(学ぶ力) 探究力・学び続ける力・コミュニケーション力の3つの「学ぶ力」が育成されている	(心) 違いを受け入れ、かけがえのない存在であることを認め合う「心」が育成されている。	(姿勢) 先を見据える「姿勢」、自分の考えや行動を省み改善する「姿勢」が育成されている。	20.1	62.2	15.8	1.8	%	22.2	75.0	2.8	0.0	%	
					28.5	57.4	12.6	1.4	%	36.1	63.9	0.0	0.0	%
					21.7	59.2	18.1	1.1	%	13.9	69.4	16.7	0.0	%

< 1 > ~ < 3 >

評価項目 番号	保護者															教員				
	中高全体					中学					高校									
	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア
設問_1	20.1	62.2	15.8	1.8	0.83	11.8	68.6	19.6	0.0	0.73	22.0	60.8	15.0	2.2	0.85	22.2	75.0	2.8	0.0	1.17
設問_2	28.5	57.4	12.6	1.4	0.99	13.7	68.6	17.6	0.0	0.78	31.9	54.9	11.5	1.8	1.04	36.1	63.9	0.0	0.0	1.36
設問_3	21.7	59.2	18.1	1.1	0.82	13.7	60.8	25.5	0.0	0.63	23.5	58.8	16.4	1.3	0.87	13.9	69.4	16.7	0.0	0.81

3項目とも中学校において要検討事項と考えることができる。それぞれの教育コンセプトがどの教育活動と結びついているのかということを生徒及び保護者に対して明確にしていく必要があると考える。

B：教科指導について

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目	保護者	保護者				%	教員				%					
		A	B	C	D		A	B	C	D						
		18.7	56.8	20.9	3.6		22.2	69.4	8.3	0.0						
B:教科指導について	4	必要な学力が定着、向上する授業が行われている														
	5	必要な学力が定着、向上する適切なコースやカリキュラムが設定されている														
	6	放課後や長期休業中に、講座や補習が必要に応じて行われている														
	7	学校として必要な国際教育が行われている														
	8	ICTを活用して学習効率を向上させる指導が行われている														

< 4 > ~ < 8 >

評価項目 番号	保護者															教員				
	中高全体					中学					高校					教員				
	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア
設問_4	18.7	56.8	20.9	3.6	0.66	17.6	52.9	23.5	5.9	0.53	18.9	57.7	20.3	3.1	0.69	22.2	69.4	8.3	0.0	1.06
設問_5	20.9	57.2	18.3	3.6	0.73	5.9	72.5	17.6	3.9	0.59	24.2	53.7	18.5	3.5	0.77	22.2	72.2	5.6	0.0	1.11
設問_6	27.1	50.9	19.1	2.9	0.80	29.4	54.9	15.7	0.0	0.98	26.5	50.0	19.9	3.5	0.76	50.0	38.9	11.1	0.0	1.28
設問_7	22.0	54.2	19.5	4.3	0.70	13.7	66.7	15.7	3.9	0.71	23.9	51.3	20.4	4.4	0.70	41.7	52.8	5.6	0.0	1.31
設問_8	25.3	57.4	14.8	2.5	0.88	21.6	58.8	13.7	5.9	0.76	26.1	57.1	15.0	1.8	0.91	33.3	63.9	2.8	0.0	1.28

中学校においては項目< 4 >< 5 >< 7 >< 8 >、高校においては項目< 4 >< 5 >< 6 >< 7 >が要検討事項であると読み取れる。項目< 4 >においては、学内の定期試験のみならず、模試等の成績についても安定した高い達成率が求められていると考える。また、令和3年度大学入試結果も起因していると考えており、安定した高い学力と進学実績が認知されるように授業及び進路指導体制の改善を行う必要がある。項目< 5 >に関しては、令和4年度からの高校のコース制の変更が影響していると考えられる。このコース制の変更が生徒の学びの質を向上させたことをしっかりと証明する必要がある。項目< 6 >に関しては、中学校は放課後等の丁寧な学習指導が認知された結果が反映されたと考えられる。高等学校においては、令和4年度からは本格的に学習メンター制度（放課後学習プログラム）を実施し、更なる教育環境の充実に努める。項目< 7 >は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、各種国際教育関連プログラムが中止されていることも要因となっていると考えられる。今後は、グローバルコモンズを中心に、本項目における改善を検討していく必要がある。項目< 8 >に関しては、ICTをどのように使用しているかを具体的に中学校の保護者に発信していく必要があると考える。

C：教科外活動について

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目	保護者	保護者				%	教員				%
		A	B	C	D		A	B	C	D	
C:教科外活動について	9	部活動や生徒会活動が活発に行われている	41.1	45.5	11.6	1.8	61.0	38.9	0.0	0.0	
	10	学校行事が充実している	23.8	53.8	18.4	4.0	55.6	36.1	8.3	0.0	
11	学内外の活動を通して、ボランティア精神を育む教育が行われている	25.3	49.8	21.3	3.6	19.4	55.6	25.0	0.0		

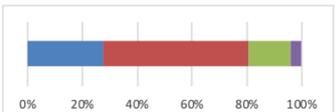
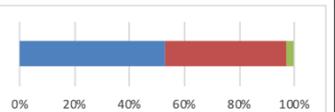
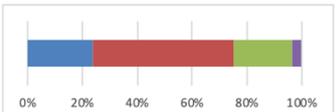
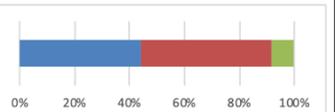
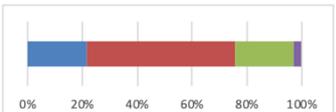
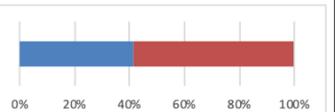
< 9 > ~ < 1 1 >

評価項目 番号	保護者															教員				
	中高全体					中学					高校									
	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア
設問_9	41.1	45.5	11.6	1.8	1.12	19.6	56.9	21.6	2.0	0.71	46.0	42.9	9.4	1.8	1.22	61.1	38.9	0.0	0.0	1.61
設問_10	23.8	53.8	18.4	4.0	0.75	21.6	54.9	17.6	5.9	0.69	24.3	53.5	18.6	3.5	0.77	55.6	36.1	8.3	0.0	1.39
設問_11	25.3	49.8	21.3	3.6	0.72	13.7	62.7	19.6	3.9	0.63	27.9	46.9	21.7	3.5	0.74	19.4	55.6	25.0	0.0	0.69

中学校においては3項目とも、高等学校においては項目< 1 0 > < 1 1 >が要検討事項であると考えている。項目< 9 >に関しては、部活動や生徒会活動における中学生の役割も大きくしていく必要があると考える。項目< 1 0 > < 1 1 >に関しては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、各種行事・ボランティア活動が縮小または中止されていることにも要因があるとする。今後は、感染対策を徹底しながら各行事やボランティア活動を再度、活性化させていく必要がある。項目< 1 1 >に関しては、教員のスコアも要検討事項となっていることにも留意しなければならない。

D：進路指導について

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目	保護者	A	B	C	D	%	教員				
							A	B	C	D	%
D:進路指導について	12 生徒の希望に沿った進路指導が行われている	27.4	53.1	15.5	4.0	%	52.8	44.4	2.8	0.0	%
											
	13 進路説明会や進路プログラム、キャリア教育等が、生徒が将来を考えることのできる内容になっている	23.9	51.4	21.4	3.3	%	44.4	47.2	8.3	0.0	%
											
14 大学入試改革に対応した適切な指導(英語四技能・キャリアパスポート等を含む)が行われている	21.5	54.2	21.5	2.9	%	41.7	58.3	0.0	0.0	%	
											

< 1 2 > ~ < 1 4 >

評価項目 番号	保護者															教員				
	中高全体					中学					高校					教員				
	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア
設問_12	27.4	53.1	15.5	4.0	0.84	9.8	66.7	21.6	2.0	0.61	31.4	50.0	14.2	4.4	0.90	52.8	44.4	2.8	0.0	1.47
設問_13	23.9	51.4	21.4	3.3	0.71	2.0	60.8	35.3	2.0	0.25	28.9	49.3	18.2	3.6	0.82	44.4	47.2	8.3	0.0	1.28
設問_14	21.5	54.2	21.5	2.9	0.70	3.9	52.9	41.2	2.0	0.16	25.4	54.5	17.0	3.1	0.82	41.7	58.3	0.0	0.0	1.42

3項目とも、中学校において要検討事項であることが読み取れる。これは昨年度と同様の結果であり、高校に比べて大学入試までの時間が長いことも要因として考えられるが、高校の教育と連動した進路指導及び進路プログラム・キャリア教育の「見える化」が必要であると考えられる。

E：生徒指導について

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目	15 教員の生徒指導や生徒への関わりが適切に行われている	保護者					教員				
		A	B	C	D	%	A	B	C	D	%
		23.6	52.5	18.5	5.4	%	36.1	58.3	2.8	2.8	%
E:生徒指導について	16 校内におけるいじめの早期発見、防止が適切に行われている	A	B	C	D	%	A	B	C	D	%
		18.1	60.1	19.2	2.5	%	33.3	63.9	2.8	0.0	%
		25.7	51.1	20.7	2.5	%	41.7	55.6	2.8	0.0	%
E:生徒指導について	17 生徒一人ひとりに対し、必要に応じて適切な支援が行われている	A	B	C	D	%	A	B	C	D	%
		25.7	51.1	20.7	2.5	%	41.7	55.6	2.8	0.0	%
		25.7	51.1	20.7	2.5	%	41.7	55.6	2.8	0.0	%

< 15 > ~ < 17 >

評価項目 番号	保護者															教員				
	中高全体					中学					高校					A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア
設問_15	23.6	52.5	18.5	5.4	0.70	13.7	52.9	27.5	5.9	0.41	25.8	52.4	16.4	5.3	0.77	36.1	58.3	2.8	2.8	1.22
設問_16	18.1	60.1	19.2	2.5	0.72	11.8	51.0	27.5	9.8	0.27	19.6	62.2	17.3	0.9	0.82	33.3	63.9	2.8	0.0	1.28
設問_17	25.7	51.1	20.7	2.5	0.77	13.7	54.9	27.5	3.9	0.47	28.4	50.2	19.1	2.2	0.84	41.7	55.6	2.8	0.0	1.36

中学校においては3項目、高等学校においては< 15 >が要検討事項であることが読み取れる。項目< 15 >に関しては、問題点を洗い出し、すでに改善を実施している。< 16 > < 17 >はいじめを含めた友人間の諸問題の調査回数を増やして、各問題にもれなく対応していく必要がある。

F：保護者と学校との連携について

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目	保護者	保護者					教員					
		A	B	C	D	%	A	B	C	D	%	
F:保護者と学校との連携について	18	各種行事の案内が適宜行われている	48.6	44.2	6.5	0.7	%	72.2	27.8	0.0	0.0	%
	19	学校のホームページが充実している	30.1	53.6	14.1	2.2	%	41.7	41.7	16.7	0.0	%
20	Classiを使用した連絡が、適切に運用されている	63.0	29.3	6.5	1.1	%	86.1	13.9	0.0	0.0	%	
21	保護者説明会・個人懇談の内容、回数が適切である	42.8	49.3	7.2	0.7	%	61.1	36.1	2.8	0.0	%	

< 18 > ~ < 21 >

評価項目 番号	保護者															教員				
	中高全体					中学					高校					A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア
設問_18	48.6	44.2	6.5	0.7	1.33	39.2	51.0	7.8	2.0	1.18	50.7	42.7	6.2	0.4	1.37	72.2	27.8	0.0	0.0	1.72
設問_19	30.1	53.6	14.1	2.2	0.95	23.5	56.9	15.7	3.9	0.80	31.6	52.9	13.8	1.8	0.99	41.7	41.7	16.7	0.0	1.08
設問_20	63.0	29.3	6.5	1.1	1.47	58.8	29.4	7.8	3.9	1.31	64.0	29.3	6.2	0.4	1.50	86.1	13.9	0.0	0.0	1.86
設問_21	42.8	49.3	7.2	0.7	1.26	35.3	52.9	9.8	2.0	1.10	44.4	48.4	6.7	0.4	1.30	61.1	36.1	2.8	0.0	1.56

中学校及び高等学校ともに全項目良好な結果であった。昨年度の課題であったホームページに関しても、改善したことも良い結果につながったと考える。今後も更なる改善に努めたい。

G：学校運営：開かれた学校づくり

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目	保護者	保護者				%	教員				%
		A	B	C	D		A	B	C	D	
G:施設設備について、全般	22	35.0	48.9	14.2	1.8		36.1	47.2	13.9	2.8	
	23	25.7	61.0	11.0	2.2		22.2	52.8	25.0	0.0	
24	45.3	42.0	10.9	1.8		25.0	55.6	13.9	5.6		
25	35.5	48.4	13.2	2.9		22.2	69.4	8.3	0.0		

< 2 2 > ~ < 2 5 >

評価項目 番号	保護者															教員				
	中高全体					中学					高校									
	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア
設問_22	35.0	48.9	14.2	1.8	1.01	28.0	54.0	18.0	0.0	0.92	36.6	47.8	13.4	2.2	1.03	36.1	47.2	13.9	2.8	1.00
設問_23	25.7	61.0	11.0	2.2	0.97	24.0	62.0	12.0	2.0	0.94	26.1	60.8	10.8	2.3	0.98	22.2	52.8	25.0	0.0	0.72
設問_24	45.3	42.0	10.9	1.8	1.18	44.0	46.0	8.0	2.0	1.22	45.5	41.1	11.6	1.8	1.17	25.0	55.6	13.9	5.6	0.81
設問_25	35.5	48.4	13.2	2.9	1.00	24.0	52.0	18.0	6.0	0.70	38.1	47.5	12.1	2.2	1.07	22.2	69.4	8.3	0.0	1.06

中学校においては項目< 2 5 >が要検討事項である。これまでに検証してきた各項目を改善することで、本項目の改善につながるようにしていく。また、項目< 2 3 >については、教員のスコアが低いことは留意しなければならない。

7. 2021年度（令和3年度）生徒授業評価アンケートと結果分析

アンケートの評価観点は10項目で、生徒が受講している全教科・全科目を対象に実施した。生徒たちの集中力を考慮して、項目が多くなりすぎないように心がけている。また、アンケートの結果は、全教員に配布し、以後の教育活動に活かすよう努めている。結果に関しては、全体、中学校、高等学校に分けてまとめた。

分析は、A（よくあてはまる）を+2、B（ややあてはまる）を+1、C（あまりあてはまらない）を-1、D（まったくあてはまらない）を-2として、各評価A～Dの割合に乗じたものを下欄にスコアとして示した。スコア0.8以上のものを良好と考え、それ以下のものを要検討事項と考えている。

授業評価アンケート 結果<2021年1月実施分> 全体・中学校・高等学校

中高全体

	A	B	C	D	2021年度 A+B	2020年度 A+B
①授業に集中して取り組むことができる。	56.5%	36.5%	5.4%	1.5%	93.1%	92.9%
②その授業で何が重要なかがわかる。	51.7%	38.0%	8.3%	2.0%	89.7%	89.6%
③授業の進度やレベルが自分に適切だと感じる。	50.7%	38.2%	8.8%	2.3%	88.9%	88.8%
④授業で与えられる課題の量は適切だと感じる。	56.5%	36.0%	5.6%	1.9%	92.5%	91.6%
⑤授業に工夫（ICTやプリントの活用、授業形態など）が見られる。	52.4%	36.5%	8.6%	2.5%	88.9%	87.5%
⑥授業の学習方法（予習や復習など）が分かる。実技教科に関しては、課題提出や技能向上に向けた取り組み方が分かる。	47.9%	39.1%	10.5%	2.6%	87.0%	87.3%
⑦授業に興味・関心をもつことができる。	50.0%	36.2%	10.3%	3.5%	86.3%	87.0%
⑧授業を受けて、知識や技能が身についていると感じる。	49.3%	37.9%	9.6%	3.1%	87.3%	88.3%
⑨授業が自分の成長のために必要だと感じる。	53.4%	35.6%	8.3%	2.7%	88.9%	89.6%
⑩先生の指導に満足している。	57.3%	34.2%	5.9%	2.6%	91.5%	91.0%

A：よくあてはまる B：ややあてはまる C：あまりあてはまらない D：まったくあてはまらない

中学校

	A	B	C	D	2021年度 A+B	2020年度 A+B
①授業に集中して取り組むことができている。	47.9%	43.0%	6.7%	2.4%	90.9%	89.6%
②その授業で何が重要なのがわかる。	42.2%	49.2%	7.4%	1.2%	91.4%	86.7%
③授業の進度やレベルが自分に適切だと感じる。	41.5%	49.2%	7.8%	1.5%	90.8%	87.6%
④授業で与えられる課題の量は適切だと感じる。	53.1%	41.1%	4.6%	1.3%	94.1%	89.6%
⑤授業に工夫（ICTやプリントの活用、授業形態など）が見られる。	42.3%	47.3%	9.3%	1.1%	89.6%	82.1%
⑥授業の学習方法（予習や復習など）が分かる。実技教科に関しては、課題提出や技能向上に向けた取り組み方が分かる。	36.0%	49.7%	11.9%	2.5%	85.6%	82.6%
⑦授業に興味・関心をもつことができている。	42.3%	44.7%	10.2%	2.8%	87.0%	82.9%
⑧授業を受けて、知識や技能が身についていると感じる。	40.9%	48.3%	8.5%	2.3%	89.2%	84.6%
⑨授業が自分の成長のために必要だと感じる。	47.3%	43.2%	7.3%	2.2%	90.5%	86.5%
⑩先生の指導に満足している。	59.2%	36.2%	3.1%	1.5%	95.4%	88.5%

A：よくあてはまる B：ややあてはまる C：あまりあてはまらない D：まったくあてはまらない

A：よくあてはまる B：

	A	B	C	D	2021年度 A+B	2020年度 A+B
①授業に集中して取り組むことができている。	58.6%	35.0%	5.1%	1.3%	93.6%	93.5%
						
②その授業で何が重要なかがわかる。	54.0%	35.4%	8.5%	2.2%	89.3%	90.1%
						
③授業の進度やレベルが自分に適切だと感じる。	52.9%	35.6%	9.0%	2.6%	88.4%	88.9%
						
④授業で与えられる課題の量は適切だと感じる。	57.3%	34.8%	5.8%	2.1%	92.1%	92.0%
						
⑤授業に工夫（ICTやプリントの活用、授業形態など）が見られる。	54.8%	33.9%	8.4%	2.8%	88.7%	88.4%
						
⑥授業の学習方法（予習や復習など）が分かる。実技教科に関しては、課題提出や技能向上に向けた取り組み方が分かる。	50.7%	36.6%	10.1%	2.6%	87.3%	88.0%
						
⑦授業に興味・関心をもつことができている。	51.8%	34.2%	10.3%	3.6%	86.1%	87.7%
						
⑧授業を受けて、知識や技能が身についていると感じる。	51.3%	35.5%	9.9%	3.3%	86.8%	88.9%
						
⑨授業が自分の成長のために必要だと感じる。	54.8%	33.8%	8.6%	2.9%	88.6%	90.0%
						
⑩先生の指導に満足している。	56.9%	33.7%	6.6%	2.9%	90.6%	91.5%
						

ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

< 1 > ~ < 1 0 >

項目 番号	中高全体					中学					高校				
	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア
①	56.5	36.5	5.4	1.5	1.41	47.9	43.0	6.7	2.4	1.27	58.6	35.0	5.1	1.3	1.44
②	51.7	38.0	8.3	2.0	1.29	42.2	49.2	7.4	1.2	1.24	54.0	35.4	8.5	2.2	1.30
③	50.7	38.2	8.8	2.3	1.26	41.5	49.2	7.8	1.5	1.22	52.9	35.6	9.0	2.6	1.27
④	56.5	36.0	5.6	1.9	1.40	53.1	41.1	4.6	1.3	1.40	57.3	34.8	5.8	2.1	1.39
⑤	52.4	36.5	8.6	2.5	1.28	42.3	47.3	9.3	1.1	1.20	54.8	33.9	8.4	2.8	1.29
⑥	47.9	39.1	10.5	2.6	1.19	36.0	49.7	11.9	2.5	1.05	50.7	36.6	10.1	2.6	1.23
⑦	50.0	36.2	10.3	3.5	1.19	42.3	44.7	10.2	2.8	1.13	51.8	34.2	10.3	3.6	1.20
⑧	49.3	37.9	9.6	3.1	1.21	40.9	48.3	8.5	2.3	1.17	51.3	35.5	9.9	3.3	1.22
⑨	53.4	35.6	8.3	2.7	1.29	47.3	43.2	7.3	2.2	1.26	54.8	33.8	8.6	2.9	1.29
⑩	57.3	34.2	5.9	2.6	1.38	59.2	36.2	3.1	1.5	1.49	56.9	33.7	6.6	2.9	1.35

全体的に良好な結果であると読み取ることができる。ただし、授業に関しては常に改善を促し、教員個々の研鑽が必要である。ただし、保護者の学校自己評価アンケートの該当項目との差が見受けられるため、授業内容はもちろんのこと、模試の成績や進路実績など、数値として見える結果をしっかりと残していくように努めていく必要がある。

8. 2021年度（令和3年度） 自己評価及び次年度の課題と改善策

評価項目（1）目指す教師像の実現	自己評価
<p>具体的方策① モチベーション・マネジメント制度を振り返りさらなる意識向上を図る。</p> <p><活動実績と自己評価></p> <p>モチベーション・マネジメント制度導入3年目となるが、昨年度に引き続きFFシート（評価シート）に「目指す教師像」の自己評価項目を設定している。教員が、年度の中間に各項目の振り返りを評価者とともにを行い、年度末に最終の自己評価を行う。各項目ともS・A・B・C・Dの5段階評価としており、Sは「期待を大きく上回った」、Aは「期待を上回った」、Bは「期待通り」、Cは「期待を下回った」、Dは「期待を大きく下回った」としている。S・A・Bを良好として考えると、全ての項目において80%以上の教員が該当するため、評価指標は達成することができたと考ええる。</p> <p><次年度の課題と改善策></p> <p>評価指標の設定（年度始めと年度末に教員が自己評価を行い、各項目の評価向上が教員全体の50%以上）が実態にそぐわなかったため、今後も上記のスコアでの評価を行い、この数値が大きくなるように努めていく。</p>	A
<p>具体的方策② 教員研修を実施し、意識から行動への移行を図る。</p> <p><活動実績と自己評価></p> <p>5月に「カトリック教育に関する研修」、10月に「男女共学化に向けた生徒指導研修」及び「観点別評価の研修」、12月に「SNSを含む生徒の諸問題に関する研修」、2月に「LGBTを含めた人権研修」を実施して研鑽を行った。これの研修を通して新しい視点を身につけることができたと考えている。また、本項目の評価に関しても、上記具体的方策①と同様の評価を行い、評価指標を達成することができたと考ええる。</p> <p><次年度の課題と改善策></p> <p>引き続き、教員の研鑽につながる研修をその時に必要と考えるテーマで実施する。</p>	自己評価 A

評価項目（２）教育コンセプトの実現	自己評価
<p>具体的方策① 学校案内パンフレット・ホームページを通して明確に打ち出す。</p> <p><活動実績と自己評価></p> <p>予定通り、引き続きパンフレットやホームページを通して、教育コンセプトを明確に打ち出した。パンフレットに関しては、在校生全員への配布も行った。</p> <p>教員による学校自己評価アンケートの該当項目平均が「よくあてはまる」24.1%、「ややあてはまる」69.4%、「あまりあてはまらない」6.5%、「まったくあてはまらない」0%という結果であった。評価指標の達成に関しては、「やや当てはまる」までを含めて達成することができたと考えている。</p> <p>生徒による自己評価アンケートの該当項目平均が「以前に比べて意識することができ、かなり身に付いているように感じる」13.2%、「以前に比べて意識することができ、少し身に付いているように感じる」59.1%、「以前に比べて意識することができたが、身に付いているようには感じない」23.3%、「以前に比べて意識することはなかったし、身に付いているようにも感じない」4.5%という結果であった。評価指標の達成に関しては、「以前に比べて意識することができ、少し身に付いているように感じる」までを含めて達成できたと考えている。</p> <p>保護者による学校自己評価アンケートの該当項目平均が「よくあてはまる」23.4%、「ややあてはまる」59.6%、「あまりあてはまらない」15.5%、「まったくあてはまらない」1.4%という結果であった。評価指標の達成に関しては、「やや当てはまる」までを含めて達成できたと考えている。</p> <p><次年度の課題と改善策></p> <p>引き続き教育コンセプトの実現を図るため、各種媒体を使って明確に発信を行いながら、どの教育活動と各教育活動が結びついているのかを明確にしていきたい。また、生徒による自己評価も定期的に行い、意識づけを行う。</p>	A
<p>具体的方策② 日々のSHR、学年集会、全体集会、保護者会を通して浸透を図る。</p> <p><活動実績と自己評価></p> <p>昨年度同様、学年集会、全体集会、保護者会等は、新型コロナウイルス感染対策の観点から実施を見送った。日々のSHRや朝礼講話などを通して教育コンセプトの浸透を図った。評価指標に関しては、上記具体的方策①と同様に達成できたと考えている。</p> <p><次年度の課題と改善策></p> <p>今後は、中学は総合学習、高校は探究活動を中心に、教育コンセプトに掲げる3つの力の定着に努める。</p>	自己評価 B
<p>具体的方策③ 教育コンセプトを実現させるために、各行事と結びつけ、振り返りを実施する。</p> <p><活動実績と自己評価></p> <p>各行事を企画する際に、必ず教育コンセプトが盛り込まれるように要項に明記した。体育大会や文化祭においては、教育コンセプトの実現ができたかどうか、生徒による振り返りを実施したが、振り返り方法や他の行事の振り返りに関しては改善の余地がある。評価指標に関しては、上記具体的方策①と同様に達成できたとと言える。</p> <p><次年度の課題と改善策></p> <p>生徒の振り返り方法については、改善していく必要がある。また、引き続き、各行事と教育コンセプトを結びつけ、日々の学びと行事の連動も図る。</p>	自己評価 B

評価項目（3）ICTの活用充実	自己評価
<p>具体的方策 iPadを教員に配当し、iPadやChromebookを使った授業を実践し、研究または公開授業を行う。</p> <p><活動実績と自己評価></p> <p>教員用のiPadの再配当を行い、学校全体として効率的にICTの活用ができるようにした。3月には校内研究授業を行い、観点別評価を踏まえた授業を行い、その中でICTを積極的に活用した研究授業も行うことができた。</p> <p>教員による学校自己評価アンケート該当項目は「よくあてはまる」33.3%、「ややあてはまる」63.9%、「あまりあてはまらない」2.8%、「まったくあてはまらない」0%という結果であった。評価指標の達成に関しては、「ややあてはまる」までを含めて目標を達成できたと考えている。</p> <p>保護者による学校自己評価アンケート該当項目は「よくあてはまる」25.3%、「ややあてはまる」57.4%、「あまりあてはまらない」14.8%、「まったくあてはまらない」2.5%という結果であった。評価指標達成に関しては、「ややあてはまる」までを含めて目標を達成できたと考えている。</p> <p>別途行った生徒による自己評価アンケートは「ICT(iPadやChromebookなど)を十分に学習に活用でき、学力向上につながっている」14.7%、「ICT(iPadやChromebookなど)をかなり学習に活用できている」23.5%、「ICTをある程度学習に活用できている」51.5%、「ICTはほとんど学習に活用できていない」8.8%、「ICTは全く学習に活用できていない」1.5%という結果であった。評価指標の達成に関しては、「ICTをある程度学習に活用できている」までを含めて目標を達成できたと考えている。</p> <p><次年度の課題と改善策></p> <p>引き続きICTの活用充実を図る。ChromebookやiPadの利用調査も行い、更なる活用のための現状把握を行い、今後の方策について検討する。また、「学校評価アンケートと結果分析」に記載したように、ICTをどのように使用しているかを具体的に保護者に発信していく必要はある。</p>	A

<p>評価項目（４）各コース毎の学習習慣の改善・成績向上・進路実績向上</p>	<p>自己評価</p>
<p>具体的方策① 授業評価アンケートの振り返りを実施し、課題等を共有することで改善を促す。 <活動実績と自己評価> 1月に全校生徒を対象に「授業評価アンケート」を行った。各設問項目及び結果については、「7.2021年度(令和3年度)生徒授業評価アンケートと結果分析」に記載した通りであり、中高ともに全項目良好な結果であった。評価指標に関しては、授業評価アンケートの結果からも、目標を達成できたと考えているが、振り返りに関しては十分であったとは言えない。 <次年度の課題と改善策> 授業評価アンケート結果は良好であったが、敢えてその中でも低いスコアの項目に着目すると、中学は項目⑥「授業の学習方法（予習や復習など）が分かる。実技教科に関しては、課題提出や技術向上に向けた取り組みが分かる。」、高校は項目⑦「授業に興味・関心をもつことができている。」であり、これらの項目に関して、より良好な結果が出るように改善していきたい。また、「6.2021年度(令和3年度)学校評価アンケートと結果分析 B:教科指導について」においても記載した通り、学内の定期試験のみならず、模試等の成績についても安定した高い学力が維持できるような指導体制を強化していく必要がある。</p>	<p>B</p>
<p>具体的方策② 英検・GTEC スコア・漢検の各学年における指標を示し、生徒が率先して学習に取り組む姿勢をサポートする。 <活動実績と自己評価> 各学年における英検・GTEC スコア・漢検の指標を英語科・国語科より示し、それぞれの目標達成に向けて生徒の学力サポートに努めた。 ・英検の各学年における目標達成率については次の通りであり、目標を達成できた学年・コースもあるが、すべての学年・コースにおいて達成できたわけではない。 中1) 35.5% 中2) 20% 中3) 81.5% 高1) 文理S・文理コース 39.1% その他コース 56.7% 高2) 文理S・文理コース 5.6% その他のコース 14.4% 高3) 文理S・文理コース 88.9% その他のコース 43.5% ・高校 GTEC スコアにおける評価指標については、各学年とも目標を達成することができた。 ・漢検の各学年における目標達成率については次の通りであり、目標を達成できた学年・コースもあるが、すべての学年・コースにおいて目標を達成できたわけではない。 中1) 38.7% 中2) 73.3% 中3) S文理 100% 学際 66.7% 高1) 文理S・文理コース 27.3% その他のコース 34.7% 高2) 文理S・文理コース 22.2% その他のコース 33.3% 高3) 文理S・文理コース 44.4% その他のコース 36.1% <次年度の課題と改善策> 本結果を全教員で共有し、教科及び新学年ですべての学年・コースで目標を達成するための具体策を検討する。</p>	<p>自己評価</p> <p>B</p>

評価項目（５）進学実績の向上	自己評価
<p>具体的方策 現状より一歩上を目指した進路を実現するための学習指導と進路指導を担当と教科担当者が密に連携して実現する。</p> <p><活動実績と自己評価> 今年度の進路結果に関しては以下の通りであり、目標を達成することができた。 国公立大・関関同立) 合格者数 25 名 産近甲龍・三女子大) 合格者数 38 名</p> <p><次年度の課題と改善策> 今年度の入試結果を振り返り、良かった点と改善点を次学年及び教科内で引き継ぎ、更なる進学実績の向上に努める。</p>	A

<p>評価項目（6）入学者数の増員</p>	<p>自己評価</p>
<p>具体的方策① 共学化を軸に、高校においては新しい教育をアピールし、中学においては手厚い指導をアピールしながら募集活動を行う。</p> <p><活動実績と自己評価></p> <p>共学化を軸に、高校においては「進路を明確にしたコース制」「探究を中心とした学びへのシフト」「学びのコンパクト化」をアピールした。中学校においては多様な学習コンテンツの充実から手厚い指導をアピールした。結果として、入学者数は中学 31 名、高校 215 名と高校において入学者数を約 2 倍に増やすことができ、目標を大きく超えることができ、中高トータルで考えると目標を達成することができたと考えている。</p> <p><次年度の課題と改善策></p> <p>中学に関しては、募集戦略や内部小学校との連携を見直す必要がある。また、高校については入学者数の維持及び増員を目指して、男女共学 1 年目の生徒の満足度が高くなるように学びの環境を整え、それらを受験生や保護者にしっかりとアピールしていく。</p>	<p>A</p>
<p>具体的方策② 重点地域を意識した募集活動を行う。</p> <p><活動実績と自己評価></p> <p>近隣の中学校への募集活動を強化し、各種イベント案内などの広報を行った。また、近隣 2 校及びその他の中学校 1 校で保護者向けに本校の説明と入学案内を行うことができた。結果及び評価に関しては具体的方策①で示した通りである。</p> <p><次年度の課題と改善策></p> <p>引き続き、近隣中学校から受験につながるように募集活動を行っていく。そのために、今年度と同様、近隣中学校での説明の機会を確保し、さらに説明の内容等の見直しを行う。</p>	<p>自己評価</p> <p>A</p>
<p>具体的方策③ 各種イベント、広報ツールを改善する。</p> <p><活動実績と自己評価></p> <p>課題であったホームページを見やすくなるように改修した。高校においては、共学化特設サイトも作成し、Instagram や Facebook 広告と連動するようにした。また、中高ともに公式 Instagram を始め、高校は公式 Facebook も始め、広報ツールとしても利用してインターネットによる広報を強化した。</p> <p>広報ツールとしては、上記のインターネットによる広報のみならず、タブロイド紙を作成し、各中学校に配布して新たな信愛をアピールした。</p> <p>各種イベントについては、オープンキャンパスや入試説明会の内容を見直し、改善した。</p> <p>結果及び評価に関しては具体的方策①で示した通りである。</p> <p><次年度の課題と改善策></p> <p>今年度始めた広報ツールの運用を円滑に進めながら、改善を行っていく。各種イベントについては、イベント後のフォローなども新たに始めていく。</p>	<p>自己評価</p> <p>A</p>

9. 学校関係者評価

(1) 学校関係者評価委員会の構成

後援会代表 2名・愛友会（同窓会）代表 2名・教育会代表（高校副会長及び中学副会長） 2名
中高教員代表（副校長・教務部長） 2名 計 8名

(2) 開催日時

令和4年8月20日（土） 10:00～11:00

(3) 評価のために使用した資料

2021年度 学校評価報告書原案

- ・学校目標と具体的方策及び評価指標
- ・学校評価アンケート（保護者・教員）と結果分析
- ・生徒授業評価アンケートと結果分析
- ・自己評価及び次年度の課題と改善策
- ・2022年度の方針（教育改善PDCAサイクルのイメージ）

(4) 学校関係者評価委員会における主な意見

- ・生徒自身、学習等の目標が達成できなかった事項に関しては（英検、漢検、模試などを含む）は徹底的に自己分析を行い、その理由を明確にする必要がある。また、それを先生方と面談することでより効果的になると考えている。
- ・生徒自身にPDCAを実施させ、懇談時に親の前でインタビューさせるなどの取り組みを導入してはどうか。
- ・中学の段階から大学進学を目標とし、更なる学力向上に特化した授業を実施する必要があると考える。
- ・クラブ活動に関してもさらに盛んにする必要もあり、同好会に関しても部活動への昇格をしていく必要があるのではないか。

10. 2022年度（令和4年度）の方針（教育改善PDCAサイクルのイメージ）

2022年度（令和4年度）教育改善PDCAサイクルのイメージ

P

- 1 目指す教師像の実現
- 2 教育コンセプトの実現
- 3 ICTの活用充実
- 4 学習意欲及び学力向上
- 5 進学実績の向上
- 6 入学者数の増員



D

- 1 教員の意識向上と行動の変容の促進を目的としたモチベーション・マネジメント制度の実施
- 2 教員及び生徒の自己評価の実施 及び 各教育活動(行事等)との結びつけ・振り返りの実施
- 3 Chromebookの利用調査及びICTを積極的に活用した授業及び研究授業の実施
- 4 授業評価アンケート振り返り・共有の実施 及び 英検・GTEC スコア・漢検の各学年における指標に向けた学習活動の実施
- 5 希望する進路を実現するための学習指導 及び 進路指導における担任と教科担当者の連携強化の実施
- 6 共学1年目における学びの環境充実（高校は探究活動・学びのコンパクト化・コースの特長、中学は多様な学習コンテンツ）のアピール 及び SNS を利用した広報活動の拡充実施



C

- 1 教員のモチベーションマネジメント制度・FFシートの分析
- 2 教員・生徒・保護者による自己評価アンケートの分析
- 3 教員・生徒・保護者による自己評価アンケートの分析
- 4 各学年及び教科による分析
- 5 進路指導部及び高3学年会による分析
- 6 募集広報連絡会における分析



A

- 1 行動変容の実践
- 2 具体的教育内容の実践
- 3 ICTを利用した授業改革の実践
- 4 各指標達成のための指導改善の実践
- 5 各指標達成のための取り組み改善の実践
- 6 各種入試関連行事、広告媒体の見直しの実践